

わははネットのスタッフは全員子を持つ母親。訪れるお母さんにとって、頼れる心強い存在だ。



「一部650円で3000部を書店に置いたら、すぐに完売。それで2000部増刷して、計5000部売れたんです。こんなに子育ての情報を求めている人がいるのだと実感しました」

子連れでの取材や書店で販売をしてもらう交渉など、創刊までには多くの苦労があったが、反響の大きさに、こ

れ1回ではやめられないと思った。その後、ニーズが高まりスポンサーもたくさんつくようになったため、2002年1月に、「わははネット」としてNPO法人化。また、「おやこDEわはは」はフリーペーパーとなり、隔月発行で発行部数2万5000部を誇っている。

「お母さんは、良い話だけではなく、あそこの保育所はPTA役員会が昼間にあるので面倒だとか、あの産婦人科は対応がイマイチとか、そういう噂話レベルの情報も欲しいんです」

こういった話は情報誌やメール配信で伝えることはできないため、お母さん同士で情報を集めたり話をしたりする「口（くち）コミュニケーション」の場が必要だと考えた。こうして子育て応援スペース「わはは・ひろば」を開設したのだ。

特集
子育てしやすい地域をつくる

香 川県高松市の中心部にある丸亀町商店街。活気あふれるこの商店街から1本露地を入ったところにNPO法人「わははネット」の本部がある。理事長の中橋恵美子さんは、行政に先駆けてさまざまな取り組みをしてきた子育て支援の先駆者だ。

3人の子を持つ母でもある中橋さんは、わははネットを立ち上げるきっかけは、自身の子育て期にあった。夫の仕事の関係で移り住んだ茨城県つくば市で長女と次女を出産したが、知らない土地で子育てもわからないことだらけ。うつうつとした日々を過ごしたという。

その後、生まれ育った香川に戻ったが、子どもが生まれた後では必要な情報もコミュニティもまったく違った。そこで仲間づくりをしようと立ち上げ

たのが、子育てサークル「輪母（わはは）ネット」だった。「ただお喋りをするだけのサークルでは意味がない。主体的に社会に関わりたいと思って始めたのが、子育て情報誌の制作です」

**お母さんに情報を届けるため
自腹で子育て情報誌を制作**

子育てについて、欲しい情報も教えない情報も溢れるようにあった。そこで当時10名ほどのサークルのメンバーが自腹でお金を出し合い、1999年（平成11）11月、香川県の情報に特化した地域密着型の子育て情報誌「おやこDEわはは」を創刊した。

「メンバー全員が、出産経験あり、出版経験なし」のなかで頑張りまじし」と楽しそうに振り返る中橋さん。創刊の反響は、想像をはるかに超えて大きかったという。

情報誌に続いて取り組んだのは、子育て情報のメール配信サービスだ。「おやこDEわはは」はフリーペーパー化し、公共施設など身近な場所に置かれるようになったものの、引きこもりがちで外に出ないお母さんも多い。「そういう人たちにこそ「外に出てきたら面白いことがあるよ」「仲間になろうよ」と伝えたかった」と中橋さん。今ではメルマガなどの情報配信は一般的なだが、当時はまだやっと専業主婦が携帯電話を持つようになった時代だ。

そんな中で、2003年にいち早く携帯メール配信サービス「わははメール」を開始。わははメールは、2009年に経済産業省が公募したコミュニケーション/ソーシャルビジネスの先進事例の中から、「ソーシャルビジネス55選」

にも選出された。

現在では、メール登録者数は約4000人となり、週1回、コラムやイベント情報などが無料で届く。

さらに、情報を届けるだけでなく、お母さんとの双方向のやりとりができる場を、と開いたのが、子育てスペース「わはは・ひろば」だ。

「お母さんは、良い話だけではなく、あそこの保育所はPTA役員会が昼間にあるので面倒だとか、あの産婦人科は対応がイマイチとか、そういう噂話レベルの情報も欲しいんです」

こういった話は情報誌やメール配信で伝えることはできないため、お母さん同士で情報を集めたり話をしたりする「口（くち）コミュニケーション」の場が必要だと考えた。こうして子育て応援スペース「わはは・ひろば」を開設したのだ。



「おやこDEわはは」では、子連れで楽しめるイベントなど、香川に特化した子育て情報を紹介。

Part1 NPOの取り組み

母の気持ちに寄り添う 自主的な輪

よりよい子育て環境の整備や支援活動には、行政だけではなく民間の力が欠かせない。
ここでは、先進的かつ独自の活動で子育て支援を推進する、
NPOの取り組みを4例紹介する。



中橋恵美子さん
NPO法人わははネット理事長。子育て情報誌発行やメール配信、子育てひろばの運営など幅広く活動。3児の母。

高松 NPO法人わははネット お母さんが抱える 困ったを軸に 子育て環境を改善

高松のNPO法人「わははネット」は、子育ての情報発信やスペースの開設などを行政に先駆けて開始した。先進的な取り組みの数々について代表の中橋さんに聞いた。
取材文 ● 及川三弓（回遊舎） 撮影 ● 金井塚太郎

わははネット沿革

- 1998年 4月 育児サークル「輪母ネット」発足
- 1999年 11月 香川県初の子育て情報誌「おやこDEわはは」創刊
- 2002年 1月 NPO法人に認証される
- 2003年 3月 坂出市内の商店街で「わはは・ひろば坂出」開設
- 2003年 6月 情報誌「おやこDEわはは」をフリーペーパー化。年4回発行に
- 2003年 12月 携帯メール配信「わははメール」サービススタート
- 2004年 7月 全国初「子育てタクシー」高松市内で運行
- 2004年 9月 「わはは・ひろば高松」を高松市内の商店街エリアに開設
- 2012年 4月 第1回ママ∞フェスタ開催
- 2012年 5月 情報誌「おやこDEわはは」隔月発行に
- 2015年 1月 美容院等サロン向け「子育て美容-eki」認定講習会開始

お母さんを優しくサポート 全国初「子育てタクシー」

子育てスペースに来るお母さんの話
が取り組みのきっかけになる。たとえ
ば「子育てタクシー」がそれだ。
陣痛が始まり、病院へ行くこととした
妊婦が接したドライバーの冷たい対応
や、出産を終え退院をする際に、生ま
れたての赤ちゃんを抱きながらたたくさ

んの荷物を抱えていても、ドライバー
が手を貸してくれず苦労した、といっ
た話を聞いた中橋さん。

「タクシーがもうすこし子育てに優し
い乗り物になってくれたら……」

こうして「子育てタクシー」の取り
組みを開始した。ドライバーは講座の
受講や実習を受けることで、子育てタ
クシードライバーとして認定される。

2004年7月、全国初の子育てタク
シーが高松市内で運行した。

「子どもが生まれてから、迷惑をかけ
てすみませんって謝ってばかりだった。
タクシーのドライバーさんに頑張っ
てねって言われて、涙が出るぐらいうれ
しかったです」。子育てタクシーを導
入したタクシー会社には、利用したお
母さんからこんな手紙が届いたという。



子育て支援スペース「わはは・ひろば」。就園前の子どもと保護者、妊婦さんが自由に立ち寄れる。



研修を受けたタクシーには認定ステッカーが。チャイルドシートの設置など、お母さんも安心。(提供：わははネット)

いつも行く美容院が 子育て相談の窓口

今、新たに力を入れてるのが、美容サロン向けの研修プログラム「子育て美容ieki」だ。

香川県の美容院の登録数は2200店舗以上あり、わははネットの調査では、子育てに忙しくても2〜3か月に1回は美容院に行くというお母さんが3割、半年に1回は行くという人を入れると6割近くにのぼる。つまり定期的に顔を見せる場所だということだ。また美容院やネイルサロンでは、個人的な悩みを気軽に話す傾向にある。

そこで、美容サロンで働く人に子育てに関する最低限の知識を持ってもらうことで、悩みを抱えるお母さんに、「こういう場所があるよ」「こういうところに相談してみたら？」と伝える窓

口になってもらえたらと考え、始めたのがこの取り組みだ。

2015年から開始した「子育て美容ieki」の研修には、269店舗以上の美容サロンが参加をしている。

「子育てタクシーも子育て美容iekiもそうですが、わははネットだけでなく、社会を何とかしようというのではなく、いろいろな人たちと協力することで、解決の種を蒔いていきたいのです」

悩めるお母さん一人ひとりに 向けた取り組み

高松市の子育て支援事業の特徴について、中橋さんはこう話す。

「行政が、当団体を筆頭にしたNPOに事業を委託をする傾向にはあります。子育て支援拠点も、普通は直営や社会福祉法人などでやることが多いのですが、高松市内では私たちがどこよりも



香川県内に4つあるわははの子育て支援拠点には、1カ月で400人もの親子が訪れる。(提供：わははネット)

先に始めたので、市役所などもNPOに委託する方がより市民目線で身近なサービスが可能だと考えているのかもしれない

わははネットの持つ、子育てに特化した経験、知識、ネットワーク、データ、そしてお母さんとの直接的な繋がりが、すべて自主事業で運営しているため、経済的自立をしているのも、行政と同等に意見交換ができる強みだと言える。行政とNPOがバランスよく協同する高松市の取り組みは、他のまちにとっても多いに参考になるだろう。

最後に中橋さんはこう語った。

「困っているお母さん一人ひとりのストーリーに応えたい。子育てはそういうものだから仕方がない。子どもが大きくなるまではガマンするしかない」といった子育てのガマンの申し送りや積み重なって、今にいたるんです。だから、1人の小さなつまづきを解決すれば、10人が助かるかもしれないという気持ちで企画を考えます。このスタンスは情報誌の創刊時から変わっていないですね」

お母さんに優しい環境づくりを着実に推し進めるわははネット。これからもその活動から目が離せない。

ママの声

「わはは・ひろば高松」のリーダーである
2人のママに通うきっかけと理由を聞きました。



中道郁子さん 耀一朗くん

—— わははを知ったきっかけは？

転勤で高松に引っ越して来た際に、保健センターでパンフレットを見たのがきっかけです。

—— わははに通う理由は？

まだ保育園に入っていないので、ほかのお子さんと遊んだりする機会がなかなかないんです。わははに来ると、一緒にお昼を食べたり遊んだりして交流できるのがうれしい。最近では毎日のように来ています。



米田章子さん 英史くん(右) 向志くん(左)

—— わははを知ったきっかけは？

大阪から高松に来たのですが、転入手続きの際に、市役所の子育て支援のMAPを見て訪れました。

—— わははに通う理由は？

スタッフの皆さんがとても感じがよくて、悩み相談などもしやすいです。イベントなどを通して他のお母さんたちとも話ができますし、おもちゃも豊富で子どもも楽しく遊んでくれるのが魅力的ですね。